



宮井 里佳 教授

人間社会学部 情報社会学科 文化研究室

キーワード

仏教、浄土教、中国中世、写本・版本、マンガ・アニメ

■ 主な研究シーズ

- 浄土思想と実践
- 中国中世の仏教儀礼(瞑想、法会)
- 現代日本の「宗教」
- 現代日本の仏教活動と将来像
- マンガ・アニメに見られる「宗教」思想

■ 研究シーズ概要

時代や社会が変化するとき、人々が求めるもの、思想はどのように変化するのか、という観点から主に仏教思想・実践について研究を行ってきました。

その主たる方法論は、●日本の古写本をはじめ世界に散在する写本・版本の調査・研究から校勘テキストを作成し、そこから思想や社会を読み解くという文献学によるものです。これまで、●中国中世の浄土教の思想と実践(特に観想)について考究し、浄土祖師たちが引用する中国撰述経典や儀礼に関する経典に研究対象、領域を広げてきました。近年では、●6c.末に成立した後に失われた『金藏論』テキストを日本古写本、大英図書館など世界に散在する敦煌写本および韓国にのみ伝存した版本によって復元し、中国における仏教の「類書」(百科事典)や因縁物語集の成立について、また「唱導」をはじめとする仏教儀礼(法会)について考えてきました。

これらのアカデミックな研究を基礎として、現代の問題についても考察を重ね、現在は主に本学先端研「科学と仏教思想」研究センターにおいて活動しています。●現代日本における「宗教」をめぐる諸問題について:1995年以來、オウム真理教をはじめとする「カルト」問題について、また近年心理療法として注目を集めている瞑想を主なテーマとしています。その過程で、●現代日本の寺院で活動されている僧侶の方々と連携し、これからの仏教の行方についても考察を行っています。また長年の個人的な関心事および指導学生の研究テーマの一つとして、●現代日本のマンガやアニメにおいて、生き方や超越的存在、救いについてどのように描かれているか(これらを広く「宗教」思想ととらえます)を検証することによって、現代の「宗教」観について考えています。

過去・現在の「宗教」に対するニーズや受容のしかたを考察することは、今後の人の生き方や社会のあり方について考えることにもつながります。

■ 業界の相談に対応できる分野

■ 特記事項

ビジネスモデル イノベーション



林 信義 教授

人間社会学部 情報社会学科 ビジネスモデル研究室

キーワード

ビジネスモデル、イノベーション、商品開発、人材育成

■ 主な研究シーズ

- ビジネスモデル・イノベーション
- 新規事業開発・新商品開発
- 人材育成・人材活用

■ 研究シーズ概要

● ビジネスモデル・イノベーション

コアとなる技術力を背景とした今後の成長の可能性を洗い出し、その成長を実現するための条件を明確化。社会環境、ニーズからビジネスモデルアイデアを抽出。経営戦略、施策と目標を盛り込んだ経営計画を策定し、実行を支援。

● 新規事業開発・新商品開発

ニーズとシーズの把握から、ターゲット顧客を抽出し、他社との差別化を意識した事業・商品コンセプトを構築。商品仕様やパッケージ、ネーミングなど、マーケティング・ミックスの各戦略を立案し、実行計画へ落とし込み、上市実現。

● 人材育成・人材活用

次代を担う若手社員の全社的観点の育成とモチベーションの向上を目指し、部門を越えたプロジェクトチームを組成。全社的な重要施策について討議し、解決策を経営幹部へ答申。実行フェーズではプロジェクトメンバー各々が PDCA を回しながら組織運営、経営管理を経験。

■ 業界の相談に対応できる分野

前職の経営コンサルティング会社での実績を合わせて200以上のプロジェクトを実施しました。

■ 特記事項

ビジネスモデル・経営戦略の策定に加えて運用、実行支援に強みがあります。

コンピュータ音楽の制作、アルゴリズム作曲、現代音楽の作曲



中川善裕 教授

人間社会学部 情報社会学科 音楽・音響メディア研究室

キーワード

コンピュータ音楽、電子作曲、自動作曲、現代音楽

■ 主な研究シーズ

- コンピュータを用いた電子音響音楽の制作
- コンピュータを用いたアルゴリズム作曲、コンピュータ援用作曲の研究
- 伝統的な西洋楽器による作曲

■ 研究シーズ概要

■ 研究の概要

○ コンピュータを用いた電子音響音楽の制作

コンピュータで合成された音響、フィールドレコーディングされた具体音などを用いて抽象的な音響世界を構築するための表現方法について研究しています。

○ コンピュータを用いたアルゴリズム作曲、コンピュータ援用作曲の研究

コンピュータの処理能力の向上と共に、コンピュータが単なる情報処理に留まらず人間の思考の一部を受け持ったり、人間の関与を最小限にしたコンピュータによる作曲が可能になっている現在、それらを踏まえた上で、コンピュータを用いた人間の感性に基づく作曲プログラムについて研究しています。

○ 伝統的な西洋楽器による作曲

西洋楽器の演奏方法や作曲法を用いながらも、現代における表現の在り方を、現代的な演奏方法や作曲方法、表現の新たな可能性を検討しながら、現代における新たな視点に立った創作とは何かを研究しています。

■ 産業界の相談に対応できる分野

音楽による環境美化

■ 特記事項

次世代情報コミュニケーション



森沢 幸博 教授

人間社会学部 情報社会学科 森沢研究室

キーワード 感覚拡張メディア、UI/UX デザイン、コンピュータグラフィックス、人工現実感、イマーシブ・エクスペリエンス

■ 主な研究シーズ

- XR (AR、MR、VR) 技術を活用したデジタル・コンテンツ
- 複合感覚を利用した次世代メディア

■ 研究シーズ概要

- XR 技術、複合感覚を活用した情報コミュニケーション

情報処理に必要な五感、体性感覚の組み合わせや非言語情報、共通する身体性を備えることで可能になる身体的コミュニケーション機構、人の会話や行動に備わっている調整機構を利用したコミュニケーションに関する研究を行なっています。



■ 業界の相談に対応できる分

- CG 映像制作、グラフィック・デザイン、XR (AR、MR、VR) コンテンツ制作

■ 特記事項

CGを活用した次世代型デジタルコンテンツ制作



檀上 誠 教授

人間社会学部 情報社会学科 メディアデザイン研究室

キーワード

CGデザイン、映像デザイン、実写合成技術、デジタルコンテンツ

■ 主な研究シーズ

- 3DCGを活用した次世代自動車向けエクステリアデザイン
- 地域開発における空間デザイン
- 三次元仮想空間におけるアバターデザイン

■ 研究シーズ概要

コンピュータ・グラフィックス(以下、CG とする)は TV、ゲームなどエンターテインメント分野を始めとした多くの産業界にて活用されています。既存の産業界向けに関する CG の研究だけではなく、新たに発展が見込まれている分野(デジタルサイネージ、AR、モバイル)も視野に入れながら、次世代に必要とされるデジタルコンテンツの制作について研究を行っております。

■ 業界の相談に対応できる分野

CG または映像の活用を目的とする分野

■ 特記事項

外部機関から委託された研究事例について

「自動車事故状況を再現するためのCG映像制作」 委託研究、2013年3月～7月、千葉県警

「裁判員裁判向け傷害事件を再現したCG映像制作」 委託研究、2013年12月～2014年2月、千葉県

「岡部駅南地区集約店舗構想のイメージ図作成」 委託研究、2015年9月～2016年2月、ふかや市商工会

時系列文書の解析システム



田中 克明 教授

人間社会学部 情報社会学科 知能情報システム研究室

キーワード

知能工学、テキストマイニング、設計支援

■ 主な研究シーズ

- テキストマイニング
- 時系列文書のトピック遷移分析システム
- 知識獲得と設計支援

■ 研究シーズ概要

● テキストマイニング

PLSI (Probabilistic Latent Semantic Indexing) や LDA (Latent Dirichlet Allocation) といったトピック抽出手法を用い、テキストなどからの情報抽出と利用を行う手法について研究を行っています。

● 時系列文書のトピック遷移分析システム

上述のテキストマイニング技術を、ある程度の期間にわたって蓄積された文書に対して適用することで、時間の経過に沿ったトピック遷移の抽出を行うシステム、および、ユーザが指定した単語や文書に基づいて、トピック遷移の再構成と可視化を行うシステムを開発しています。さらに、これらのシステムを、会議の議事録や SNS のログへ適用する研究を行っています。

● 知識獲得と設計支援

人工物の設計は、人工物への知識の適用とその結果の確認を、人間が繰り返すことにより行われます。この過程を時間経過に沿って記録した文書に対して時系列文書の分析システムを適用し、設計過程で行われた試行錯誤を抽出するなど、用いられた知識の発見を支援する方法について、研究を行っています。

■ 業界の相談に対応できる分野

テキストマイニング、文書処理、蓄積された情報の活用

■ 特記事項

経営に情報を活かす



村山 要司 教授

人間社会学部 情報社会学科 経営情報研究室

研究室ホームページ URL: <https://murayama-lab.org/>

キーワード

経営情報、コンピュータサイエンス

■ 主な研究シーズ

- 経営課題における最適化、シミュレーション
- データサイエンスとデジタルマーケティング
- ビジネスプロセスの効率化

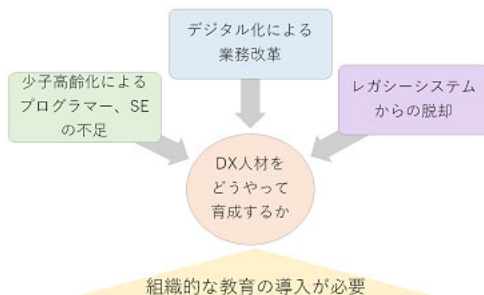
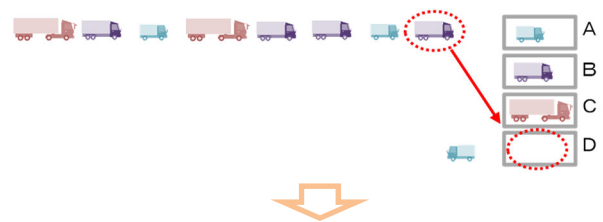
■ 研究シーズ概要

○ 概要

さまざまな経営問題に対して、データマーケティングや AI(機械学習)、数理最適化といったコンピュータサイエンスを活用し、マーケティング分析や、ビジネスプロセスの効率化を図る研究を行っています。

○ 研究例

「パートタイム中心の職場におけるシフトスケジューリングの最適化」、「トラック輸送の長時間労働抑制に向けた入荷バース割り当て問題の解消」、「DX 推進のためのデジタル人材育成プログラムの開発」など。



	A	B	C	D
6:00				
7:00				
8:00				
9:00				
10:00				
11:00				

■ 業界の相談に対応できる分野

経営問題の数理最適化、マーケティング分析、DX 人材育成、IT 教育・研修

■ 特記事項

IT 企業での技術者、経営者としての実務経験を活かし、さまざまな経営問題に取り組んでいます。

株式会社法制度のあり方



李 艶紅 准教授

人間社会学部 情報社会学科 ビジネス関連法研究室

キーワード

種類株式、株式保有構造、株式会社支配権のあり方、女性役員登用制度

■ 主な研究シーズ

- 株式会社支配権と Dual-Class Structures
- 女性役員登用制度
- Corporate Social Responsibility(CSR)

■ 研究シーズ概要

● 株式会社支配権と Dual-Class Structures

株式会社の会社支配権に関しては、株式会社に対して出資を行う株主の有する議決権の行使によってこれを実現するという手段が用意されている。株主は株主総会において議決権を行使することを通じて経営者を選び、会社の重要な経営判断事項に対して発言権を有するのである。これが株式会社に対する支配権の考え方であり、1株1議決権の原則のもとでは、より多くの株式を持つ者が会社に対してより大きな支配権を行使することができる。ところが、1株に 10 以上の議決権を付与する道も法律上用意されている。その例が、Dual-Class Structures である。そうすると、少額の投資にもかかわらず、より巨大な会社支配権を維持することが可能となる。こうした仕組みの是非をめぐるアメリカ、日本と香港の制度や実務の比較研究を行っている。

● 女性役員登用制度の国際比較研究

女性役員の登用制度が 2000 年代初期以降欧州から世界中に広まりつつある中、日本においても女性の社会進出や男女平等などの文脈において盛んに議論され始めてきている。女性役員を登用することで企業にもたらすメリットなど様々な角度から検証が行われている中で、女性役員登用制度の望ましいあり方を探るために諸外国の法制度との比較研究を行っている。

● Corporate Social Responsibility(CSR)

利潤の最大化を目指すのが経営者の責務である。ただ、目先の利益だけを考え、社会の要請に背を向ける経営方針は、企業の長期的な利益に役に立つとは思えない。近年では、企業の社会的な責任 (Corporate Social Responsibility, CSR) の考え方が広く支持されてきている。それに対して、「株式会社の負うべき社会的責任」について法定すべきとの意見も見られる。昨今の企業不祥事に目を向ければ、CSR の重要性を否定し得ないであろう。どのような法制度のもとで企業の社会的な責任を課すべきかはまだまだ議論の最中である。諸外国での議論の動向を調査しつつより良い制度のあり方を探りたい。

■ 業界の相談に対応できる分野

■ 特記事項



本吉 裕之 准教授

人間社会学部 情報社会学科 経営企画研究室

研究室ホームページ URL: <https://www.motoyoshi-lab.com/>

キーワード

経営管理 新商品開発 企業分析 営業戦略 データ分析
地方創生 ツーリズム

■主な研究シーズ

- 新規事業開発と利益創出
- 地方創生における諸問題の解決と人材育成
- 時間軸発想をベースとしたビジネス設計

■研究シーズ概要

- 新規事業開発と利益創出
各企業において、新しい事業を行うための体制・環境の整備・仕組み作りの構築を研究
- 地方創生における諸問題の解決と人材育成
企業と自治体が連携した、人口減少・少子化を見据えた10年、20年後のまちづくりについて。
- Webビジネスにおける時間軸発想
インターネット社会における行動経済学から見た、消費活動の研究

■業界の相談に対応できる分野

スタートアップ企業支援及び、自治体が抱える諸問題の解決
(現在、深谷商店街連合会・埼玉県美里町と連携協定を締結し、事業支援中)

■特記事項

外部機関から委託された研究事例について(一部抜粋)

2019年 「山形セルリー」東北地域ブランド総選挙 特許庁・東北経済産業局

2020年～継続中 JR只見駅周辺魅力化向上事業/縁結び「三石神社」PR活動事業 福島県只見町

2020年～2022年 「紅干柿」PR活動 上市市役所農林夢づくり課・かみのやまブランド推進協議会

2020年 山形県警察大学生ボランティア啓発事業 山形県警察ボランティア等研究会

2021年 大学等と連携した観光経営人材育成事業「新規事業開発」担当 立教大学観光研究所



平田 文子 准教授

人間社会学部 情報社会学科 教育学研究室

キーワード

教育哲学、教育思想、道德教育、宗教と教育、フランスの公民教育

■ 主な研究シーズ

- デュルケームの教育思想とユダヤ教
- フランスにおける道德・公民教育
- 道德教育の理論と方法

■ 研究シーズ概要

人類の発展・文明の発展と常に同時進行で行われてきたものの1つに「教育」があります。共同体の中で生活を営む人間にとっては、他者と関わりについての一定の基準が必要でした。「汝 殺すなかれ、汝 盗むなかれ、汝 偽証するなかれ、、、」これは聖書(旧約聖書)の「出エジプト記」に記されているモーセの十戒の一部です。共同体の人々に規律を持たせ、他者との共存を円滑にするために、イスラエルの民のモーセは、ヤハヴェ(唯一神)の言葉を石板に刻んで民に示しました。そして、モーセの意志を引き継いだイスラエルの賢者たちは、この神からの啓示を守らせるべく民を教育しました。はっきりとした年代は分かりませんが、「出エジプト記」は紀元前 1300 年ごろのものと言われています。ユダヤ教思想の研究を通して教育の原点を探求しています。

山田 仁三・北村 泰子 両氏によると「大脳皮質は古い皮質(原始皮質と古皮質)、中間皮質、新皮質に区分されるが、新皮質はヒトをヒトたらしめる構造として発達してきた」(山田 仁三・北村 泰子著、『人脳解剖学自習書—立体的理解を求めて』クバプロ, 2011 年, p.106)とされています。つまり、脳の表層部分にある理性といわれる部分は、一番最近進化した(出来上がった)部分であり、今後も変化しやすい(場合によっては切り捨てられていく可能性もある)部分であるということです。ということは、ヒトをヒトたらしめるために、訓練もしくは教育が必要であり、その仕方によって人類の進化は大きく方向転換していくということです。つまり、教育の営みは次世代を創る営みです。人間の未来の明暗は教育に託されていると言っても過言ではありません。教育の根本原理についての研究を私は続けていきます。

■ 業界の相談に対応できる分野

■ 特記事項